

雪谷 「伸び率勝負」



御園拓摩
(2年)

身長186センチ、最速140キロの大型右腕。今秋は体重アップで球威が増した



吉田一輝
(2年=二塁手)

勝負強い打撃でチームを牽引する中距離ヒッター。懐深い打撃で外野を抜く



2003年夏の甲子園初出場から20年 秋予選敗退を糧に再起を誓う「赤い軍団」

2003年夏の東東京大会で初優勝し甲子園初出場を成し遂げた雪谷。甲子園出場から20年目を迎えようとしているチームは、2度目の甲子園を狙っていく。

■2003年夏の東東京大会で優勝

甲子園出場から20年が経過しようとしている。雪谷は、2003年夏の東東京大会初優勝で甲子園初出場を成し遂げた。準々決勝で東京実、準決勝で安田学園、決勝で二松学園大附に勝利し、優勝旗をつかみ取った。時代は流れているが、選手たちの覚悟は失われていない。私学趨勢の東東京大会に再び都立旋風を起こすべく、部員たちは切磋琢磨を続けている。

前チームは、最速145キロのエース右腕・渡邊顕人(3年)が注目を集めた。今夏の東東京大会では3回戦で修徳と対戦。エース渡邊の力投によって投手戦になったが3対4で惜敗した。先輩たちの涙を力に、新チームはスタートを切った。

■身長186センチの大型右腕・御園が軸
新チームは、今夏も経験した身長186センチの大型右腕・御園拓摩(2年)、平山一稀主将(2年=内・外野手)を軸に始動したが、スタメンは総入れ替えとなった。3年生たちが頼もしかった分だけ、2年生たちは自分たちの力不足を痛感した。投手として日本ハム、巨人でプレーしたキャリアを持ち、現役引退後に都教員になった

伊達昌司監督は「この2年生は、不器用だが一生懸命に努力できる選手が集まっている。今はまだ結果が出ていないが、ポテンシャルは高い。『伸び率No.1を目指そう』と伝えた」と話す。

■春、夏に勝ち上がるチームへ

秋季一次予選は、難しいブロックに入った。予選1回戦で日大二と対戦した雪谷は、エース御園が上々の立ち上がりを見せて、ゲームは1対0で4回まで進んだ。しかし5回にバッテリーエラーからチームが伸び4失点。気落ちしたチームは6回にも4失点して1対8の7回コールドで敗れる結果となった。エース御園は「変化球でストライクが取れずに、ストレートを狙われて

しまった。自分の力不足だった」と振り返った。このままでは終われない。平山主将は「チームとして力を発揮することができなかった。春、夏に勝ち上がるチームになっていく」と再起を誓う。冬を目前に、1年生も力を伸ばし、チームに刺激が加わっている。無限大の伸びしろを持つ選手たちは、自らの可能性に挑戦していくことで強くなっていく。

雪谷高校

【住所】東京都大田区久が原1-14-1

【創立】1913年

【甲子園歴】夏1回

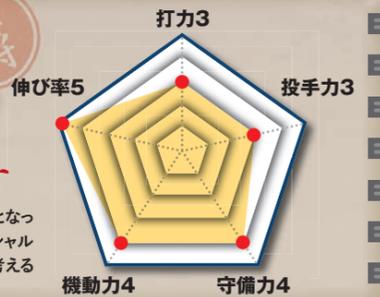
1913年に調布女子実業補習学校として創立。高等家政女学校を経て、1949年に共学に。翌1950年に現校名となる。野球部は共学化と同時に軟式野球部として創部。2003年夏には東東京大会優勝で甲子園初出場。野球部OBに鈴木優(オリックス=巨人)。

主将の チーム分析

平山一稀 主将
(2年=内・外野手)

考える野球で甲子園を目指す

「3年生から2年生の代へ移り、多くの選手が入れ替わりとなった中で秋は結果を残せませんでした。ただ、個々のポテンシャルは高いので経験値を高めて勝てるチームにしていきたい。考える野球で、私立を倒して甲子園へ行きたいと思います」



雪谷・伊達昌司監督

困難を乗り越えた先に結果がある

「今秋の新チームは、ゼロからのスタートとなりました。冬はフィジカルトレーニングが中心になっていきますが、辛いことから逃げずにチーム全員で立ち向かっていく冬にしたいと考えています。困難を乗り越えた先に結果がついて来ると考えています」

1975年神奈川県生まれ。法政二→法政大→プリンスホテル。2000年のドラフトで阪神2位指名を受けて入団。プロでは阪神、日本ハム、巨人で2006年までプレー。江戸川、府中西を経て2019年に雪谷着任。2021年春から監督